

# 蔡徳栄による中国近況説明会 ～上海事務所 in 広島～

今年度も上海在住の蔡 徳栄嘱託を日本へ招聘し、「上海事務所 in 広島」を実施し、2月17日(月)～20日(木)の期間、対中取引に関する14件の個別相談会を行ないました。

また、18日(火)には中国近況説明会を行ない、当日は20名の参加がありました。近況説明会の要旨を蔡嘱託に、以下にまとめてもらいましたので、ご覧ください。

## 中国の現状～2013年総括

2013年は、尖閣諸島問題や大気汚染など、加えて、近年著しい中国での人件費や原材料の高騰もあいまって、製造拠点を中国だけに頼ることからシフトしようという風潮が目立ちました。

一方、中国でも新たな変革の第一歩となる年だったと言えるでしょう。「世界の工場」として発展してきた中国では、現在サービス業の発展と国内消費市場の拡大に向けて様々な政策を打ち出されています。

このように2013年は、中国でビジネスを行なう上でのリスクや問題と今後の期待が入り混じる一年でした。今回は、2013年を振り返り、主なトピックをご紹介します。

### ①PM2.5 大気汚染問題:

一昨年、最も懸念された問題と言えば、尖閣諸島問題による日中経済への悪影響でしたが、昨年はPM2.5などの大気汚染ではないでしょうか。国内外からの批判を受けて、中央政府は昨年、大気汚染が特に深刻な北京・天津・河北省・山西省・内モンゴル自治区に約800億円の対策費用を拠出しました。

これに対し、北京や上海では、今後2017年までの数値目標を掲げています。北京は、大気中のPM2.5年平均濃度を2012年比で25%削減し、平均濃度を $60\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下にすること、上海市は、2012年比で20%削減し、WHOが定める基準値に近づけようとしています。

このように、今年から政府も重い腰を上げ、具体的な数値目標や対策を実施し始めており、今後5年間の動きには期待しています。

### ②一人っ子政策の緩和と高齢化:

約35年前から始まった「一人っ子政策」により、中国労働人口(15歳～59歳)は2012年統計史上初の減少傾向に転じました。そして、昨年時点での60歳以上の高齢者は約15%で、このままでは2050年には三分の一が高齢者になると見積もられています。

そこで、昨年の三中全会<sup>\*</sup>で、一人っ子同士の夫婦には2人目の出産を認める「一人っ子政策の緩和」が発表されま



協広島総合卸センター  
嘱託 蔡 徳栄

した。併せて、定年年齢の引き上げによって、労働人口の減少と深刻な社会保障資金不足に対抗する方針です。

### ③新たな中国経済の起爆剤「上海自由貿易試験区」:

「世界の市場」へと成長するために、中国政府は賃金上昇による所得増加を奨励していますが、これがコスト高の主要因となって、中国での製造環境は年々厳しくなっています。そこで、中国経済にとって、今後引き続き世界の資本と注目を集めるための新たな起爆剤として発表されたのが、上海自由貿易試験区(以下FTZと略記)です。

FTZでは、外資への開放及び規制緩和や各種手続面での簡略化など様々な目玉政策が実施されます。例えば、「ネガティブリスト」の発表により、同リストに列挙されていない領域の投資項目については従来の認可制から届出制に変更となりました。また、特に政府が誘致したいサービス業6分野18業種については大幅な規制緩和が発表されています。

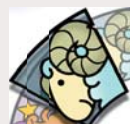
このほかにも、金融面では、金利や人民元交換の自由化、貿易面では、通関・検疫検査の簡素化によって、人民元のクロスボーダー取引<sup>\*</sup>を拡大し、新たな外資誘致の切り札にしようとしています。

上海での試行を経て、天津・広東省、そして中国全土へと拡大し、香港やシンガポールと並ぶアジア経済の主要都市を目指しています。

※WHO…世界保健機関

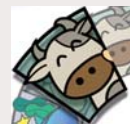
※三中全会…中国共産党中央委員会第三回全体会議

※クロスボーダー取引…国境等が異なる区域を越えておこなわれる取引



牡羊座生まれ 3月21日～4月19日

やりたいことが目押しで多忙に。  
体調管理を万全にして。



牡牛座生まれ 4月20日～5月20日

誰かに指摘されたことの責任や  
人との約束をしっかりと果たして。